

高校Ⅲ年 倫理 2単位

使用教材	『高等学校 新倫理 改訂版』(清水書院)、『倫理 一問一答問題集』(山川出版社)
試験・評価・課題等	教科書に即した学習展開をする。授業の目標はセンター試験で高得点をとることであり、担当者側からの一方授業を基本とする。週に1回小テストを実施する。夏・冬のセミナー受講も必要となる。 平常点が30%、残りの70%を定期考査の点数とし、評価する。

学習計画

期間	学習項目	指導上のポイント	備考
一学期	<p>中間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 青年期と人間としてのあり方・生き方 ・ 人間としての自覚と生き方(1) ・ 人間としての自覚と生き方(2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青年期の課題と自己形成について、人生とは何かを学ぶ。青年期の意義と自己形成、青年心理、アイデンティティクライシスなど青年期の特有の課題と生き方を学ぶ。 ・ 人生における哲学(自然哲学、ソフィスト、ソクラテス、プラトン、アリストテレスの思想)を学ぶ。人生における宗教(キリスト教、イスラム教、仏教)を学ぶ。ユダヤ教とキリスト教の共通点と差異を理解する。 ・ 理想の国家と臣民のあるべき姿を訴えた孔子と孟子の儒家思想を学ぶ。中国の長い歴史を通じて正統的思想としては朱子学が採用されたことに注意する。道家思想は民衆に大きな影響を与えたことを理解する。 ・ 自己の思想や心情、生き方を作品として表現し、人々に深い感動を与えた芸術家について学ぶ。 	<p>単元ごとに用語小テストを毎週実施する。基本的専門用語を正しく理解し、定着させることに留意する。 受講者には、自主的な予習復習を心がけさせる。</p>
	<p>期末</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際社会に生きる日本人としての自覚(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の風土と人々の考え方について、和辻哲郎、柳田国男、折口信夫の思想を学ぶ。まればと、清き赤き心(清明心)、日本文化の重層的構造を理解する。 ・ 仏教伝来により、日本では神仏習合などの独特の信仰形態を生み出したことに注意して学習する。鎌倉時代までに仏教も日本化していったことを理解する。 ・ 日本においても政治理念として取り入れられた儒教について、江戸幕府のもとで官学化した朱子学と、これに対する陽明学、古学を理解する。 	<p>サマーセミナーで1学期復習とセンター試験問題演習を行う。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会に生きる日本人としての自覚（2） 	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代の町人文化と石田梅岩、安藤昌益、二宮尊徳の民衆思想、賀茂真淵、本居宣長の国学思想を学ぶ。 ・明治以降の日本人が西洋近代思想をいかに受容したかを学び、現代日本人としての自覚とは何かを理解する。 	
二 学 期	中 間	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会と倫理（1） ・現代社会と倫理（2） 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会進化をコント、ダーウィン、スペンサーから学び、近代化のひずみをウェーバー、リースマンの分析から理解する。ルネサンスとヒューマニズムの自己肯定精神、宗教改革、モラリストの思想を学ぶ。ベーコンの帰納法、デカルトの演繹法を学ぶ。 ・民主社会における人間のあり方について、王権神授説から社会契約説までを理解する。自己実現と幸福について、カント、ヘーゲル、ベンサム、ミル、パース、デューイの思想を学ぶ。 ・個人と社会とのかかわりについて、資本主義社会の矛盾を指摘したマルクスと社会主義思想を学ぶ。 ・実存主義には、キルケゴール、ニーチェ、ヤスパース、ハイデgger、サルトルらの多様な思想があることを理解する。ナチズムの下で全体主義の危険性を見抜いたアーレントに注目する。 ・現代における理性の問題について、シュヴァイツァー、ガンデイー、フロイト、レヴィストロースの思想、フーコーらの理性主義の見直し、ウィトゲンシュタインの分析哲学、クーンの提起した科学観の転換とは何かを理解する。尊厳死、クローン、遺伝子組み換えなどの問題から生命倫理、レイチェルカーソンらから環境倫理を学ぶ。 	中間考査まで全範囲を終了するべく学習進度に注意を要する。
	期 末	<ul style="list-style-type: none"> ・総まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・センター試験過去問題演習実施。 	過去問題演習により既習範囲の定着と本番試験での実践力養成を図る。